

防災基本訓練を実施

10月16日、草加消防署西分署の協力のもと、2019年度防災基本訓練を実施した。「東京地方で震度6強の直下型地震が発生した」という想定で、学生・教職員がシェイクアウト訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練、消火訓練、煙体験、起震車体験を行った。今回初めて実施した煙体験では、グラウンドに無害の煙が充満したテントを設置。参加した学生・教職員は、身をかがめ、ハンカチを口に当てるなどし、煙で視界のきかない状況を体験した。また、アリーナでは応急救護訓練を実施(写真)。雄飛祭参加団体の学生ら約150名が参加し、AED(自動体外式除細動器)の使い方を学んだ。

参加した学生からは「多様な体験ができた。より多くの学生に参加してほしい」といった感想が寄せられた。



2019年度父母懇談会(学内会場)開催

10月19日、天野貞祐記念館大講堂で父母懇談会が行われ、352名の父母および保証人が出席した。

父母懇談会は「全体会」「学部学科別懇談会」「懇親会」の3部構成。希望者には学生による施設見学ツアー、職員による個別相談が実施された。全体会では、犬井正学長(父母の会名誉会長)より大学の近況報告があり、父母の会のさまざまな支援に対して謝辞が述べられた。また、経済学部高安健一ゼミの学生が、父母の会とのコラボレーションによる「獨大生の野菜摂取を促す共同企画」を紹介した。就職に関する講演会では、平井岳哉キャリアセンター所長の挨拶、採用コンサルタント谷出正直氏による講演、内定取得学生による就職活動経験談の発表が行われた。



第31回独協インターナショナル・フォーラム開催

11月16日、17日の2日間、天野貞祐記念館A-306教室にて第31回独協インターナショナル・フォーラム「社会ネットワーク分析の新潮流」が開催され、約120名が来場した。

今回のフォーラムは、社会ネットワーク分析の最前線で活躍する研究者を海外から招き、その現在における展開を確認。そして、国内の隣接分野の研究者がこの手法に対する多様な評価を行い、社会ネットワーク

分析の今後の方向性と日本社会への応用の可能性を考察した。

来場者からは「社会ネットワークという同じ切り口でも、分野によって着眼点が異なり、興味深い」「最新の話題に触れることができた」という声が聞かれた。



第55回雄飛祭 開催

11月1日、2日の2日間、第55回雄飛祭が開催された。テーマは「Make Your Day ~ Do you believe in magic? ~」。ハロウィンの世界が広がる雄飛祭で、来場者に魔法にかかるような素敵なお1日を過ごしてもらいたいというメッセージが込められた。

雄飛祭実行委員長の荒井航さん(済3年)は開祭式で「雄飛祭は学生主体で作り上げられていることが大きな魅力の一つ。学生のパワフルな力を直に感じることのできる大学祭だと自負している」と述べた。ゼミの研究発表やクラブ・サークルのステージパフォーマンスが行われたほか、2日には情報学研究所主催「小学生プログラミング教室」が初めて開かれた。期間中は晴天に恵まれ、延べ18,813人の来場者があった。11ページの雄飛祭特集も参照。



2019年度ホームカミングデーを開催

11月2日、本学キャンパスにおいて、卒業生を対象にしたイベント「ホームカミングデー」を開催し、約230名が参加した。

天野貞祐記念館大講堂にて行われた式典で、犬井正学長は「55年の歴史を経た獨協大学が、今なお発展し続けているのは、天野貞祐先生の建学理念に応えた卒業生の皆様のご活躍によるものです。獨協大学の名称が地域のみならず、卒業生の皆様にとって誇りとなるよう、今後も大学運営に取り組んでまいります」と挨拶した。須藤明弘同窓会会長の挨拶、ビ



デオ「獨協、その時。~獨協大学50年を振り返る」の上映後、現役学生によるマンドリンクラブの演奏、空手道部の演武があった。その後、35周年記念館学生食堂で、懇親会が行われ、参加者は恩師や友人と久しぶりの再会を楽しんだ。

ビヌス大学(インドネシア)と学術交流協定を締結

本学は、このほどインドネシア共和国のビヌス大学(BINUS University)と学術交流協定を締結した。東南アジア初の協定校となる。ビヌス大学は、ジャカルタに本部を置く私立大学。情報システム、ビジネスマネジメント、日本語・英語・中国語を含む人文社会系、ツーリズム、国際社会の学部を有する。学生数は約2万7千人。

本学では、多様な国・地域における学生の海外留学を促進し、留学を通して国際的視野に立つ教養人の育成を図るために、協定校の拡充に取り組んでいる。

